

海外医療支援活動 25 年 —海外の医療現場から日本の医療を見つめ直す—

顎顔面口腔外科医 岩田 雅裕

日々の臨床に追われながら何も考えなくなってきましたか？歯科医療に従事し始めた頃のことを・・・。

今年 25 年目を迎えるカンボジアを中心に、噂が噂を呼び、中国、スリランカ、フィリピン、ラオス、ミャンマー、ブータン、ナイジェリア、タイ、そしてカンボジアの田舎へ・・・様々な国から依頼が増えていったことから 2013 年にフリーランスとして働きながら、渡航する生活。私は世界の多くの国で無償医療支援活動を行ってきました。25 年あまり続けてきた途上国医療支援での手術は今では 3000 件を超えました。その活動の中で多くのことを教えられ、学ぶことができました。「病气やケガで困っている人を自分のもっている技術で救う」という医療の原点を感じながら、途上国で待っている患者さんたちがモチベーションとなり続けてきた私の活動もここ数年は激動の年でした。多くのメディアに取り上げられ、いくつかの賞をいただき、多くの講演の機会をいただく一方、多くの苦難も経験してきました。手術や現地医療人育成を続ける中で、多くの人たちと出会い、そして多くの人々や NGO との軋轢、いろいろ考えさせられる毎日でした。そして内戦、コロナ禍・・・嬉しいこと 2 割、辛いこと 8 割・・・25 年あまりの海外での医療活動、医療現場を見てきた経験から、海外の医療事情、医療支援の現場をご紹介しますとともに、日本の医療の良い点、問題点をお話し、医療の原点を見つめ直し、そして医療を再考する場にしたいと思います。急激に変わりゆくアジアの途上国医療現場の中で、日々途上国支援について考えてきた経験をお話しさせていただきます。海外の医療現場に興味のある先生はもちろん、日本の医療をもう一度考えてみたい先生方に、すぐには臨床に生きるお話ではありませんが、壁にぶつかった点や途上国支援の問題点などをお話ししながら、先生方があまり触れることのない医療現場をご紹介します、考え方、生き方を考え直す機会になればと思います。これからの 25 年に向けて・・・。